

虹色のような玉虫色のタマムシ

清瀬金山緑地公園の横を流れる柳瀬川の川原で水遊びをしている時、川の中の石の上で、緑色に光ものを見つけました。近寄ってみると、それはタマムシでした。公園のケヤキの木から落ちてきたのだと思いますが、意外なところでの出会いでしたので、ちょっとビックリしました。昆虫などは、それぞれの種類で、生活する環境や食性（何を食べているか）がある程度決まっています、種類間で住み分けています。タマムシは、平地や低山地の広葉樹の森や雑木林の中で生活していて、ケヤキなどの葉を食べる甲虫で、割と高い木の上の方で生活している種類です。近年、個体数が減り、見かけることが少なくなりました。自然の中で見つけたのは、何年振りか？思い出せないくらい、久しぶりの出会いでした。東京では絶滅危惧Ⅱ類に指定されています。

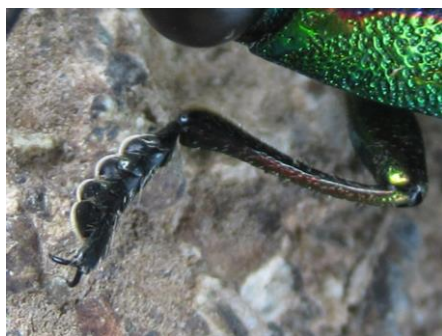


R5,7,20 清瀬市 清瀬金山緑地公園

■タマムシ (ヤマトタマムシ) コウチュウ目 タマムシ科 ルリタマムシ属

日本には、タマムシ科の甲虫は、200種類ほどいるそうですが、この美しい翅を持つ本種が代表で、タマムシという標準和名が付いていますが、図鑑によってはヤマトタマムシという名で紹介しています。

北海道以外の本州や四国、九州、沖縄に分布し、台湾や中国などの東アジアにも生息しています。ケヤキや桜の朽木に産らして、幼虫は朽木などを食べて2~3年育ち、蛹を経て、6~8月に成虫になります。成虫の大きさ名は3~4cm（タマムシの中では大型）で、タマムシの中では大型です。ケヤキなどの葉を食べています。成虫での寿命は1~2ヶ月ほどです。



●日本の甲虫界一、美しい翅を持つ玉虫

玉虫厨子 タマムシと言えば、その緑色に輝く金属光沢の上翅が美しく、昔から日本では装飾品の素材として珍重されていました。奈良の法隆寺にある「玉虫厨子（たまむしのすし）」はその代表ですね。どの部分に使われているのかなどは、調べてみてください。修学旅行でいったときは、宝物殿によって、見てください。飛鳥時代に作られたもので、さすがに玉虫はほとんど剥がれていますが、ところどころ残っています。

【関連動画】(マイクロワールドNHK)
昆虫の羽 輝きの秘密

https://www2.nhk.or.jp/school/watch/bangumi/?clas_id=000005100152_000000

構造色 タマムシの上翅は緑で、見る角度によって色を変え、虹のような複雑な輝きを放つ金属光沢をしています。これは単純に翅にある緑色の色素によるものではありません。翅の表面が、何層も薄い透明の被膜が重なっていて、それぞれの内部表面で光が反射や屈折という光の物理現象で輝いているもので、原理はとても複雑です。このような色彩を「構造色」といいます。

